

第15回肝動脈塞栓療法研究会開催のご案内

謹啓 厳寒の候、先生方におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、上記期日に本研究会を開催いたします。今回は、肝TAEに関して、アット驚くような匠の技、診療ガイドラインの適応を超えて治療しえた、あるいは残念な結果になったような教訓的な症例やリサーチ結果を公募いたします。

肝TAEの歴史は古く、半世紀に達しようとしています。肝細胞癌に対するTACEの標準化も進んでいるように思われますが、鳴海病院でのTACEの仕方も標準的なものなのか、時折、不安になります。これまで、私どもの病院にたくさんの友人をお迎えすることができました。その際、仕事もしていただいて、簡便な技術交流もすることができました。肝動脈を塞栓するという単純な行為が、意外にちょっとしたところで違っていました。

この際、attractiveな症例を検証し合い、以前までに常識的であった適応基準や制限が古ぼけてはいないのかどうか討論してみたいと思います。挑戦的な治療をなしえた症例を、奮ってご発表いただけませんか。お願い申し上げます。

敬白

— 記 —

日 時：2010年5月20～22日の第39回日本IVR学会総会と併催

会 場：浅草ビューホテル

当番世話人：淀野 啓(鳴海病院)

演題募集要項：演題名と発表者をメールでお送りください。(抄録は不要)

メール送信先：hyodono@narumihospital.jp

演題募集締め切り：2010年3月10日